

Kaikoukai
Rehabilitation
Hospital

『偕行会リハビリテーション NEWS』 vol. 80



【発行】

偕行会リハビリテーション病院

医療相談課

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 FAX 0567-52-3885



新年のご挨拶

謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中は当院の運営にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

2026 年は、医療を取り巻く環境が一層厳しさを増す年になると予想されています。特に、4 月に予定されている診療報酬改定は、医療機関の経営に大きな影響を与える重要な節目となります。高齢化の進展や医療費の増加に伴い、効率化や機能分化が求められる中で、私たちは「質の高い医療を持続可能な形で提供する」という使命を果たさなければなりません。

一方で、「医療崩壊」という言葉が現実味を帯びています。限られた人員で最大限の医療を提供するために、業務の見直しや情報コミュニケーション技術の活用を進めています。職員一人ひとりが安心して働ける環境を整えることは、患者さんへの安全・安心な医療の提供につながります。

当院は回復期リハビリテーション病院として、急性期治療を終えた患者さんが「その人らしい生活」を取り戻すためのリハビリを担っています。昨年に引き続き、多職種で生活に直結するリハビリを重視しながら、退院後の在宅生活まで切れ目のない支援を強化してまいります。地域包括ケアシステムの中で、回復期リハビリ病棟の役割はますます重要です。患者さんが安心して地域に戻れるよう、質の高いサービスを提供します。

さらに、地域貢献も当院の大切な使命です。サロンなどの健康教室や予防医療の啓発活動、病院の枠を超えた取り組みを進めてまいります。

♪病棟コンサートの様子♪



院長 田丸司



東海北陸理学療法学会、日本神経理学療法学会学会に参加・発表しました

当院では、より良いリハビリテーションを提供するため、積極的に学会活動に参加しています。先日開催された「第 41 回東海北陸理学療法学会」には当院から 3 名の理学療法士が参加し、全員が日頃の臨床で得られた成果を発表しました。また、「第 23 回日本神経理学療法学会」には 4 名が参加し、そのうち 3 名が研究内容を発表しました。

いずれの学会でも多くの医療機関等の理学療法士が集まり、最新の知識や技術が共有される貴重な場です。発表後には多くの参加者と意見交換を行い、当院の取り組みに対してさまざまな助言をいただきました。地域の皆さまに質の高いリハビリテーションを提供するため、引き続き研究活動・教育活動を推進してまいります。



病棟イベントのご報告

今年も病棟では季節を感じる楽しいイベントを開催しました。秋には「秋祭り」を行い、迫力ある和太鼓の演奏が響き渡り、患者さんやご家族から大きな拍手が送られました。ゲームコーナーでは工夫された遊びを楽しみながら笑顔があふれ、病棟全体が温かい雰囲気に包まれました。

12 月には「クリスマス会」を開催し、スタッフによる演奏で華やかなひとときをお届けしました。これからも患者さんに喜んでいただけるイベントを企画し、笑顔と交流の場を大切にしていきたいと思います。

★秋祭りの様子★



★クリスマスコンサート★



リハビリテーション・ケア合同研究大会にて



大阪で開催された「リハビリテーション・ケア合同研究大会 2025」に、今年も当院から 4 名のスタッフが参加しました。数多くの研究発表が行われる中、「チームアプローチ部門」では理学療法課の課長が座長を務め、活発な議論をリードしました。また、中村栄養士は「筋肉量を維持した減量が可能となった高度肥満を有する両片麻痺患者の一例」を発表し、栄養管理とリハビリの連携の重要性を示しました。

大阪ならではの熱気あふれる意見交換を糧に、今後も多職種協働で質の高いケアを追求してまいります。

透析センターより マフの活用について

認知症 Muff(マフ)とは

毛糸を使用した、筒状で左右が開いているニット小物。手袋型拘束帯とは異なり、手は拘束されずに自身での着脱が可能なものです。

Muffを触ることで心身の緊張をほぐし、安心感が得られるリラクゼーション効果が期待されています。



イギリスの大学病院では高齢者ケアや一部地域では救急車の搬送時にも活用されています。

～透析室での取り組み～

透析治療は4～5時間と長い時間を要します。長時間ベッド上でじっと待つというのは身体的・精神的ストレスがかかります。患者の中には認知機能低下によりベッド上安静を保つことが難しく、穿刺部や血液回路を引っ張ってしまう危険行動がみられる場面も少なくありません。

今年7月～Muffを活用し、透析治療が安全・安心に行えるように取り組みを開始しました。



Muff 作成時のポイント

- ★好みの色・配色
- ★装飾品
(興味があるものと◎)
- ★感染対策
(1人に1つの対応)

栄養士がおすすめする今日のレシピ！

電子レンジで作る魚料理 ～鮭のクリーム煮～

グリルを洗う手間がなく、火加減の調整も不要です！手軽に魚料理が作れますのでぜひお試しください！



材料

- ・塩鮭 1切れ
- ・玉ねぎ 1/4個
- ・ブロッコリー 適量

- ★小麦粉 小さじ1杯
- ★牛乳 100ml
- ★ニンニクチューブ 小さじ1/2杯
- ★コンソメ 小さじ1/2杯
- ・ブラックペッパー お好み

野菜はお好みの野菜(キャベツ、にんじん、しめじなど)を使用してください

カット野菜を使うと便利です♪



作り方

- ① 塩鮭の水気をキッチンペーパーでふき取り、一口大に切って耐熱皿に入れる
- ② 玉ねぎは薄切り、ブロッコリーは一口大に切り、①に入れる
- ③ ①に★を加えて軽く混ぜる
- ④ ふんわりとラップをかけ、電子レンジ600wで3分加熱する
- ⑤ 一度取り出し魚を裏返すなど加熱ムラがないように混ぜる
- ⑥ 電子レンジでさらに2分加熱する ※加熱が足りないときは1分ずつ追加してください
- ⑦ 仕上げにブラックペッパーをかけて完成！

ポイント

- ・深めの耐熱皿を使用しましょう！吹きこぼれる可能性があります。
- ・耐熱皿のまま食べることもできるため、洗い物も少なく済みます。
- ・念のため加熱中は電子レンジのそばを離れないでください。



電子レンジでの加熱は野菜に含まれる水溶性ビタミンの喪失が少ないというメリットもあります♪

食事療法を行っている場合は医師や管理栄養士などに相談しましょう

管理栄養士 なかい

リハビリテーション部 ～在宅分野での ST のかわり～

❁ 言語聴覚士(ST)とは？ ❁

言語障害や聴覚障害、摂食・嚥下障害に対してリハビリテーションを行う専門職です。

在宅課の言語聴覚士は、「通所リハビリ」「訪問リハビリ」「外来リハビリ」にてリハビリテーションを実施しています。

入院等のリハビリテーションを実施した後も、失語症や構音障害、摂食・嚥下障害を抱えたまま自宅で生活を送る方が少なくありません。そのような方が自宅で生活しながらリハビリテーションを行い、生活していく上での不安を少しでも解消できるような支援を行っています。

特に通所リハビリテーションでは、「口腔機能」「栄養管理」「リハビリ」を一体的に実施することが重要とされています。利用者様全員に3ヶ月に1度の口腔機能評価を行い、お口の機能や飲み込みの状態を確認し、必要に応じて個別リハビリテーションを実施し、お口や喉の機能維持を支援しています。

❁ ムセやすくなったら要注意！お口や喉の機能低下を発見し、ご指導します ❁

元々は症状がなかった方でも、年齢とともに体力や筋力が落ちると、飲み込みづらくなる症状がでることがあります。食事中にむせることが多くなったり、食事に時間がかかるようになっていたりして、食事が楽しめなくなった、外食がしづらくなったというように生活に支障が出る場合があります。一番怖い症状は飲み込む力が低下し、食べ物や飲み物が誤って気管に入ってしまう(誤嚥)ことです。誤嚥をしてしまうと、窒息や肺炎の原因になることがあります。

当院の外来診療では、食事や飲み込みに不安がある方に医師の指示のもと、嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査を実施して、飲み込みの状態を詳しく評価します。言語聴覚士は、医師と連携してこれらの検査・評価・指導などを行っています。

❁ 嚥下造影検査とは？ ❁

レントゲン室でレントゲンを撮影しながら、飲み物や食べ物を食べていただき安全に飲み込めているか、誤嚥をしていないかなどを確認します。



❁ 嚥下内視鏡検査とは？ ❁



内視鏡(カメラ付きの細長い管)を鼻から挿入し、唾液や痰の状態を確認したり、飲み物や食べ物を食べていただき、カメラで飲み込む様子を撮影したりして、誤嚥していないか、喉に食べ物が残留していないかなどを確認します。

検査結果に応じて、ご本人やご家族に食事内容や摂取方法のアドバイスや、摂食・嚥下機能維持のためのリハビリテーションを実施させていただきます ♪

自宅生活を送る中で、前よりむせるようになって飲み込みの状態が心配な方や、以前に嚥下障害を診断されて、現在の状態が知りたいという方など、お気軽に当院までご連絡ください ☎



専攻医の先生の紹介

このたび、名古屋市立大学より、リハビリテーション科専攻医の前山先生が、2025年10月から半年間の研修で当院に加わりました。回復期病棟のシステムや多くのセラピストと直接連携され、有意義な日々を過ごしておられます。残りの期間は、患者さんの家庭訪問や義肢装具作成など、より実践的な場面も経験されたいとのこと。研修期間中、患者さんの診療を安心して行えるよう、スタッフ一同しっかりサポートしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



前山医師



【私たちの基本理念】

- 1、患者のための医療を目指します。
- 2、他の医療機関と連携して、地域医療の発展を目指します。
- 3、教育・研究を重視し、職員の自己研鑽に努めます。

医療法人借行会 借行会リハビリテーション病院

〒490-1405 弥富市神戸5丁目20番地

TEL 0567-52-3883 (代表) FAX 0567-52-3885



ホームページ
はこちら



最新の情報、載ってます！

Follow us!!



Instagram



facebook



KAIJIKU_REHABILITATION_HOSPITAL

